

# きずな

## 学校支援ボランティアを募集しています

～学習支援・環境整備支援・教育活動支援・安全支援～

1月はインフルエンザが流行し、学年閉鎖や学級閉鎖が相次ぎ、学校行事やいろいろな教育活動に少なからず影響を及ぼしましたが、いよいよ今日から2月です。2月は「逃げる」と一般的に言われるように、あっという間に終わってしまいます。

さて、すでに各戸に「平成29年度学校支援ボランティア募集案内」が届いていると思います。今、学校では、子供たちに生きる力を育もうと、地域教育力を活用した特色ある教育を推進しています。本校でも、家庭や地域の皆さんに学校支援ボランティアとしてご支援をいただきながら、学校教育の充実に向けて、学校全体で取り組み、大きな成果をあげてきました。日頃の皆さんのご支援に改めて深く感謝申し上げます。

急激な社会の変化に伴い、学校教育を取り巻く状況も大きく変化し、それらに対応する学校教育が求められています。そうした中であって、これからも地域の特色を生かした教育を推進していくためには、学校教育を支えていただくさらなる人材の確保が必要です。どうか、配布しております募集要項をご覧ください、一人でも多くのご登録をお願いします。

最後に、先日、PTA研修会でシンクロナイズドスイミング日本代表のコーチである「井村雅代さん」のお話を聞く機会がありました。井村コーチと言えば、選手をいつも叱咤激励する姿がテレビで放映されていますが、その井村コーチが「叱り方のコツ」を教えてくださいました。校長の私見も交えながらお伝えします。

- 1 過去の事例を出さないこと。兄弟・姉妹や友達との比較で叱らないこと。
- 2 叱る時は「具体的に、短く」。
- 3 「お母さんは・・・」のように、主語をつけて話すこと。子供にも主語をつけて話します。「○○君は・・・」
- 4 父母、祖父母、兄姉で役割（叱る役、なだめる役など）を決め、逃げる場を用意すること。
- 5 叱った後の内面の動きを察して、アフターケアをすること。
- 6 殴ったり蹴ったりの暴力を使わないこと。

お子様の健全な成長には、親が本気で叱る、説教する、話してきかせることは避けて通れない道です。子供たちは、失敗し叱られて、反省しながら、大人として自立していきます。  
(校長 坪井 秀樹)

### お知らせ

来年度の学校の予定について一部お伝えします。平成29年度、2学期は、8月30日(水)から授業(午前中のみ)を開始します。家庭・地域行事でのご配慮をお願いいたします。